

性科学研究

一九三六年一月〜一九三七年二月

新誌論

改題『性教育』

全二巻

揃定価 〓 本体四万五〇〇〇円十税

太田武夫(典札) 〓 主宰



性科学研究 改題 第一巻第十一號

特別記事

性教育について
母と子と教師
職業婦人と性の問題 山川菊榮

〓月

産児調節運動家の医師で避妊リング 〓 太田リング発案者、性科学者のパイオニアでもある太田典札が主宰した性科学雑誌。各地での性風俗、性教育、大学生への性意識・体験調査、性の歴史研究、性犯罪、生殖科学、売春の歴史、性病、産児調節・墮胎・恋愛論まで、広く性全般を網羅し、「真面目な性科学の確立と普及」を目的とした。

性教育普及会の機関誌として、一巻一号からは「性教育」と改題、刊行の意図をより鮮明に打ち出し、早くからの性教育を訴え、老人の性も含めた多様な性へのアプローチをおこなった。一五年戦争のさなかに出されたラディカルな性研究誌としてセクソロジー・性教育・女性問題研究に必須の文献である。

不二出版

「性」に科学的に真向かい、開かれた性教育を求めた性研究雑誌の草分け！



太田典礼(武夫)

「推せんします」

ジエンダー・セクシュアリティ研究の今日的課題 館かおる（お茶の水女子大学ジエンダー研究センター教授）

『性科学研究』は一九三六（昭和11）年一月に創刊され、約二年後の一九三七年一月に終刊した。短命な雑誌にもかかわらずその内容には、今日のジエンダー・セクシュアリティ研究と符合するところがあり興味深い。『性科学研究』が掲載している論考のタイトルに目を通すだけでも、「性」を解明するために「ジエンダー」という文法上の用語を再定義したのは、性科学者ジョン・マナーであったことを再認識させられる。

マナーは、性科学が「性」の有り様のすべてを対象とすると同時に、「性」の社会的規定性に十分な配慮をすることを主張したが、『性科学研究』も「性」を捉える対象範囲は広く、その歴史性や社会性への考察もなされている。マナーの著作の翻訳者でもある朝山新一の「性決定の機構」、小倉清三郎の「性的経験の諸問題」、高倉テルや山川菊栄の「女性の社会的地位と性」に関する論考、ほかにも性生活調査、各地の性風俗、墮胎、恋愛、婚姻、売春、性病、同性愛、性的犯罪などのテーマが取り上げられている。

なお、今日のクイア理論研究にも通じる『変態心理』も昨年同じく不二出版から復刻された。私たちは今、これらの雑誌にみられるファシズム前夜の社会状況における「性」の有り様とその研究を、今日のジエンダー・セクシュアリティ研究の課題として考える必要があると思われる。
（たち・かおる）

近代セクシュアリティ史のエア・ポケット 赤川学（岡山大学助教授）

昭和一〇年代（一九三五—一九四四）は、性・性欲に関する言説が一種のエア・ポケットに入った時期である。一九一〇年代から二〇年代にかけて一世を風靡した、羽太鋭治・沢田順次郎・田中香涯らの通俗性慾学は翳りをみせ、第二次大戦後、ヴァン・デ・ヴェルデ『完全なる結婚』を筆頭に百花繚乱となる戦後性科学は、まだその全貌を現していない。大げさにいえば、日本の性研究にとって「失われた十年間」といえるだろう。

今回復刻される『性科学研究』と『性教育』は、継続期間はわずか一年あまり。この間、発禁処分も受けている。だが編集長・太田武夫（典礼）を筆頭に、山本宣治の甥・安田徳太郎、生物学者・朝山新一、式場隆三郎、純潔教育の村岡花子など、戦後性科学／性教育を牽引する人物が多く参加している。他方、田中香涯、性慾教育の市川源三、『閨術』の高田義一郎、相對研究会の小倉清三郎、小倉ミチヨなど、やや古い世代の顔ぶれも散見される。性科学の来るべき新世代と旧世代とが、『性科学研究』という場を媒介に、ひとときの交流を行っているかのようにさえみえる。また、中山太郎、大間知篤三、高倉テルなど民俗学的な知見の豊富さも特筆すべきであろう。

本書は、「セクシュアリティの近代」における「失われた十年間」を研究し、体感するための格好の素材となるにちがいない。
（あかがわ・まなぶ）

「主要執筆者一覧」

青野季吉	小倉清三郎	式場隆三郎	新居格	安田徳太郎
朝山新一	小倉ミチヨ	高倉テル	根津君夫	山川菊栄
石本静枝	金子しげり	高田義一郎	橋浦泰雄	
市川源三	神近市子	田中香涯	村岡花子	
太田武夫	金城朝永	中山太郎	森長英三郎	

「本文組見本」第巻第二号（一九三六年月）

総合科学としての性科学

安田徳太郎

人類性生活が近代科学のテーマとしてとりあげられたのはヨーロッパでは十九世紀末葉であらう。性科学研究が當時専ら醫學者によつて開拓されたために、一八八〇年代に勃興した性科学研究は専ら人間の變態性慾現象に限られてゐた。今日でも性科学といへば世人は直ちに變態性慾を聯想する程に、性科学は世人に陰鬱な感じを與へてゐる。その代表的な研究は一八七七年に發表されたウイン大學精神病教授のクラフト・エビングの「變態性慾心理」である。その書物は醫師及び法律家のための法醫學的研究とサブタイトルされてゐるやうに、人間のもろもろの變態性慾的現象は性犯罪として判決されたのである。好色文學家として令名をさせたレチフ・ド・ブルトンスやサド侯爵やザツヘル・マゾホがはじめて近代科学の舞臺に登場したのも彼の功績による。そしてエビングの研究を契機に各國において無数の變態性慾研究書が氾濫し、まことに變態性慾研究の黄金時代を劃した。

性科学におけるクラフト・エビングの功績は勿論大きかつたが、彼の一方的な近視眼的獨斷はむしろ長く性科学研究を毒したものである。病人を見て健康人を見なかつた者醫學、特に精神病學者の性科學的研究はいつもクラフト・エビング流の偏見に陥り、今日もなほ彼等の影響下にある舊式性慾研究の好事家は獵奇的興味にますます拍車をかけられて、かやうな陰鬱な空氣が今日もなほ正しい性科学研究の發展を阻害してゐる。眞理を大膽に述べるのは科學研究において最も尊ぶべき學者的態度であるが、自分が認識した一つの眞理を一切の現象に擴大することによつて、彼等はいつても致命的な誤謬に陥つたのである。

性科学研究 全一卷「復刻版刊行概要」

ISBN4-8350-1083-3

改題「性教育」

◎体裁——A5判／上製／総約二、四〇〇ページ

◎付録——解説(斎藤光)・総目次・索引
(付録のみ別冊として分売可＝本体1,000円十税)
ISBN4-8350-1086-8

◎推薦——館かおる(お茶の水女子大学センター研究センター教授) 十赤川学(岡山大学助教授)

◎揃定価——本体四万五、〇〇〇円十税

*本誌は第1巻第一号より誌名が「性教育」に改題される

◎関連図書のご案内「復刻版」

性と社会 全二巻

主宰——山本宣治

体裁——菊判／上製／総二、二八ページ

付録——解説(佐々木敏二)・総目次・索引／

『山峨女史家族制限法批判』

揃定価——本体二万五、〇〇〇円十税

総合科学としての性科学……………安田徳太郎(二)
古代日本人の性概念と婚姻制(一)……………手代木 宏(二)
言語のうえに現れた古代印度の
女性の位地(一)……………高倉テヲ(三)
性衝動と活動性……………朝山新一(七)

性科学研究

創刊號

第一巻 第一號

女性とタブー……………澤田四郎作(天)
我國離婚形式の變遷……………中山太郎(聖)
月經小屋の話……………橋正一(興)

『産児調節評論』は、二九二五年二月、研究会の機関誌及び啓発雑誌として創刊され、第九号より「性と社会」に改題された。本誌は「四号で廃刊になるまで産児調節の合理性・道徳性を訴え、避妊法を説き、性教育・人口問題を論じ続けた。三田村四郎・九津見房子らの論客を見てもわかるように、本誌は困窮する労働者の立場から産児調節を唱えたものである。女性問題、社会運動史、性教育研究に貴重な基礎文献。

マーガレット・サンガー来日に合わせ、山本宣治が『家族制限法』を全訳して出版した『山峨女史家族制限法批判』(二九二二年)も付す。

2001.5

不二出版

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12
電話(03)3812-4433
ファクシミリ(03)3812-4464
振替 00160-2-94084

●表示価格は、全て税別です。